

指定校番号	28089	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東中学校	校長	高橋 延昌	生徒指導主事	山口 裕三
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒たちが自主的・協働的・実践的に創り上げる体育大会』

取組のねらい『キーワード すばらしい伝統の継承；すばらしい行事と歌声のある学校』

東中学校がめざす学校像には「東中学校 4 つの特色」があります。その 1 つが「すばらしい行事と歌声のある学校」の実現です。東中学校の年間行事の中で、「体育大会と文化祭」は重要な特別活動の内容として位置づけ、計画的に取り組む大きな行事となります。特に 3 年生にとっては中学校生活最後の行事となり、今までの特別活動・学校行事等を通して集団行動を学び、身に付けた 3 学年集団の力を発揮する舞台となります。東中学校の体育大会は伝統として、生徒たち自らの主体的・協働的な活動を中心に、3 年生が学年の枠を超えた異年齢集団（1 年・2 年・3 年それぞれの 1 クラスが 1 つの色集団になる）のリーダーとなり、最高学年の自覚をもって、1 年生・2 年生の最高のモデリングになるため、全力で取り組んできました。また、教職員も年間を通じて特別活動の主たる目標「望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養う」等を意識し、体育大会の取組の柱であると考え、さらに、この活動を通して自己指導能力を身に付けるための積極的生徒指導の実践に向け、すべての教職員で取り組んでいます。



取組の具体的内容『キーワード 過去最高の体育大会を創る』

特別活動の年間計画の中でも（学校行事；体育大会）は生徒指導にとっても重要な教育活動の場になっています。特別活動の指導において次の 3 点（生徒指導の三機能）を重視して取り組んでいます。まず 1 点目は「生徒に【自己決定】の場や機会をより多く用意し、生徒が自己実現の喜びを味わうことができるようにする」ことです。次に「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」ことです。3 点目は



「生徒と教職員の信頼関係及び生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」ことです。東中学校の体育大会のテーマは「過去最高の体育大会」というものです。特に、3 年生は過去の 3 年生の姿と自分たちの姿をだぶらせ歴代最高の 3 年生になることを目標に各色のリーダーとして頑張っていました。3 年生は各色をまとめる応援団長と応援団を組織します。多くの生徒が応援団に立候補しますが、その他にも学級旗を作成するメンバー、色別の選手種目、学年の選手種目等の中から自分の役割を自己決定し、責任を持ち取組を進めていきます。この取組には「生徒に【自己決定】の場を与える」という要素があります。応援団からは応援団長が決められ、団長の強力なリーダーシップの基に応援団が団結し、応援合戦の内容を決定していきます。この活動では様々なトラブルが発生し、生徒自らその課題を解決しようと真剣に取り組んでいるときに「生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」感性が醸成され、お互いを励まし合い、自分の役割に責任を持ち活動する姿が生まれ、その結果が「望ましい集団の育成」への取組に繋がっています。また、多くの方が 3 年生の真摯に取り組む姿を「今までで最高の体育大会だった」と評価されたとき、「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」教育活動の場と

なり、その後の特別活動（学校行事；文化祭・卒業式）へ発展させることができたと考えています。

取組の課題・創意工夫『キーワード リーダーシップと異年齢集団』

体育大会は色別の異年齢集団で活動します。特に3年生は2年生・1年生に対し、指導することがたくさんあります。応援合戦の内容は3年生の応援団が自らで考え、自主的・創造的に「歌やダンス」を決定していきます。応援団が考えた「歌やダンス」を指導するとき、応援団長が強力なリーダーシップを発揮し、応援団の仲間がそれをサポートしていきます。3年生の活動に刺激され、2年生の応援団も協働し、1年生に対して丁寧に指導していきます。それらの活動を通じて、教職員が適切・適時に評価することから生徒たちの意欲を高揚させ、意識的に生徒を支援する言葉かけを工夫するようにしています。

取組の成果（効果）『キーワード 最高学年の自覚』

「今日は結団式がありました。すごくやる気の出る式でした。本当に私たちが『引っ張って行くんだな』っていうのと、校歌・行進だけではなく、積極性や人間性において、後輩のお手本になるということが、すごくわかりました。全てにおいて観られているという自覚をもって、全力で頑張っていきます。」

「私たち3年生にとって最後の体育大会だったので記憶に残る最高の体育大会にしたいという想いでいっぱいでした。黄組は3年生が2クラスで意見がバラバラになりぶつかること

もたくさんあって、とても大変でした。でもみんなは、最後まであきらめず、応援団として行動できたと思うし、1年生も2年生も体育大会本番直前にかわることがあっても何も文句を言わずにしてくれてとてもうれしかったです。」 【3年生 生活記録の感想より】



「放課後応援団の練習がありました。まず校歌の練習をしました。大きくそり、大きな声で歌わなければいけないのできつかったです。次に行った行進も手をしっかり振り、足をしっかりあげないといけないのでこれもきつかったです。『先輩たちはすごいんだ』と感じた最初の練習でした。」

「応援団の結団式がありました。私は小学校のときにしたけれど、それとはレベルが違い3年生2年生の先輩たちの本気さが伝わってきて私も本気で全力で声も出していました。」

「今日結団式がありました。校歌と行進の練習をしました。練習をする前に先輩方が見本を示してくれました。パワフルな声とピシッとした行進がとてもカッコ良かったです先輩方を良く見て本番も練習もがんばります。」 【1年生・2年生 生活記録の感想より】

今後の展開『キーワード 文化祭と卒業式を意識する』

生徒に年間の学校行事を意識させることが重要と考えています。体育大会は色別の異年齢集団で歌声やダンスの取組と「全体行進」の成果を競うこと、文化祭は各学年が学年集団の力を合わせ、ステージで発表することから「全校合唱」へ発展させる取組につなげます。最終的にどんな卒業式にしたいか意識させることが重要だと考えています。

他校へのアドバイス『キーワード ほめるタイミングとしかるタイミング』

特別活動（学校行事）で生徒が真剣に活動するとき、「ほめるタイミングとしかるタイミング」が大切です。生徒が失敗し自信を失ったとき、それを「しかるタイミング」ではないと考えて指導します。逆に、生徒が自信にあふれているとき、「しかるタイミング」があると指導します。「ほめるタイミング」を常に意識し、生徒が少しでも頑張れたとき「ほめるタイミング」だと考えています。